



豊富町定住支援センター図書室

サロベツ原野は 2005 年にラムサール条約に登録されています。木々が少なく、地平線を肌で感じることができます。その地平線の西に見えるのは利尻山。つまり利尻島の山です。

サロベツ原野の湿原が広がる豊富(とよとみ)町へ行くには札幌から稚内方面に北上します。稚内の手前、特急で 4 時間半ほどかかります。距離は約 352 キロ。稚内からも約 43 キロ。

飛行機で一気に稚内空港まで飛んでしまう方法もありますが、やはり陸路が良いな。その陸路の場合、道中長いので飲み物など買い込んでおくことを薦めます。シカと追突して遅延することも想定しないといけません。豊富町の人口は約 3,500 人。

みんな大好きセイコーマート。販売している牛乳は豊富町で生産しています。生乳は、毎日町内にある工場に運んでいます。ヨーグルトやチーズ、バター、アイスなども生産しています。

日本で最北の温泉郷が豊富温泉です。豊富温泉の歴史は少々他の地域と事情が異なります。豊富町観光協会公式 HP によると、「豊富温泉は大正 14 年より石油の試掘を行っており、翌年 5 月地下約 960m の地点から高圧の天然ガスと共に温泉が湧き出た「日本最北の温泉」となりました。昭和 2 年頃、草葺小屋を建てて地元の人達が温泉として利用されるようになり、まもなくして、8 つの旅館が開業し、豊富町に温泉街が誕生しました。当時 47L/分だった湯量は、令和 2 年には 273L/分まで増加」と書かれ、2 種類の泉質があり、いずれも黄濁し、井戸から石油や天然ガスと共に湧き出るため、僅かに油分を含んでいます。私はまだ入浴したことがないのですが、少し石油の匂いがするそうです。

世界的にみても珍しく日本では豊富町が唯一の泉質になります。効能はたくさんあるのですが一番はアトピーです。そこで豊富町にはアトピー性皮膚炎等の疾患を持つ町外のお子さんが、豊富温泉で湯治しながら町内の学校へ通学できるように支援する制度があります。交通費や滞在中の住居費、温泉入浴料など、様々な助成を受けることができるのはもちろん、豊富温泉には「豊富温泉コンシェルジュ・デスク」という相談窓口も備えています。

そのような町の図書室は豊富駅から徒歩 10 分ほどの豊富町定住支援センター「ふらっと★きた」内にあり、「NPO 法人くらすた豊富」が管理・運営しています。複合施設として学童保育、保健センターなども入った施設です。

図書室は蔦屋書店のような設計になっていて、通常の図書室とはかなり印象が異なります。また、アトピー性皮膚炎等で長期生活している方も利用者カードを作ることができるだけでなく、「アトピーコーナー」を常設。なくてはならないコーナーとなっています。地域資料もサロベツ原野がどのようにできたかだけでなく、石油が湧き出たという歴史資料も所蔵しています。

書店のような手書きPOPがとても多く、とても楽しい空間を感じます。そして子供たちでとても賑わい、自由だなという印象があります。

サロベツ湿原を西に向かうと「あしたの城」という民宿があります。昔よく通いました。以前は豊富駅からバスに乗り、「あしたの城の前で止めてください」というと停車してくれたのですが、今は町営バスを事前予約しないと乗車できません。だけどサロベツ原野に行くには町営バスの活用をお勧めします。なお、北海道あるあるですが、この民宿には住所に番地がありませんので、カーナビで住所や電話番号で検索することができません。

2024年7月訪問

加藤 重男